

FULL OF VALUABLE INFORMATION

トピック

KaVo Kerr
Group

Implant Direct
simply smarter.

The Implant Direct Joint Venture is part of the KaVo Kerr Group

HA

NEW! レガシー™インプラントの
**HAコートタイプを
発売開始!**

2016年
7月1日

Short
Implant
6mmL

Narrow
Implant
3.2mmD

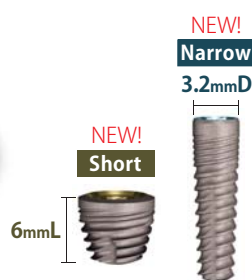
ショート・ナローサイズ
同時新発売!

国内発売以来、多くの歯科医院様でご導入頂いておりますKaVo KerrグループImplant Direct社の「レガシー™」インプラントに、この度、**HAコートタイプがラインナップに加わりました。**

同じく新発売となる**ショート、ナローインプラント**と併せ、選択肢はなんと**全180種**へと拡がり、より多くの症例への対応が可能となりました。

レガシー1~3の
バリエーション
全180種

担当者がご説明に伺いますのでお気軽にお問合せください。



※詳細は別紙で参照ください。

医療機器承認番号:22700BZ100018000、22800BZ100019000

臨床レポート

根尖病巣による広範囲な骨吸収部位へのレガシー2、HA・ナローインプラントの埋入レポート

宮崎県延岡市 鈴木歯科医院 鈴木 研治

患者は33才の男性で初診は平成27年7月である。左上2番の歯及び根尖部の違和感が主訴であった。他院にて根管治療をしたが良くならず、インプラントを視野に入れた形で来院された。CBCTでは右上1番から左上3番の根尖に連なる大きな骨吸収像(図1)が見られ、唇側口蓋側ともに今にも裂開貫通しそうであった。さらに両隣在歯にわずかな打診痛があり、歯髄へのダメージも考えられた。患者と相談の上、抜歯後インプラントを埋入する事となった。通常当院では、抜歯の場合は即時埋入を可能な限り選択するが、今回は隣在歯の状態(歯髄壊死等)を見極めないと埋入出来ない為、その旨説明し待時埋入とした。抜歯に際しては隣在歯へのダメージを考慮し、抜歯窩の搔扱は十分に行えなかった。抜歯から5ヵ月後の平成28年1月に再度CTを撮影した。骨吸収像はその時点においても著明であったが、隣在歯の症状が消失した事、及び当該歯の根尖部圧痛もやわらいだ事などから、インプラント埋入を決定した。



図1.

使用したのはレガシー2φ3.2×13mmLのHAコートタイプである。φ3.2のインプラントは、上顎側切歯と下顎前歯部に適用が多く、強度と細さをぎりぎり両立させながら審美性を求める場合に貴重な選択肢となる。また、多大な骨吸収部位への骨伝導能を期待して、当然ながらHAコートタイプを選択した(図2)。

レガシー2とレガシー3ではカラー近くのストレート部の長さの違いから、骨の硬さによって使い分けられることもできる。著者は即時荷重を多用しており、その際、付属のマウントをTek用のアパットメントとして利用するが、最終アパットメントをカスタマイズすることがほぼ確実な場合は、装着後歯肉を寄せて縫合しやすい形のマウントが付属しているレガシー2を選択している。

埋入時には大きな吸収を起こした唇側骨へのGBRを非吸収性の補填材

で追加した。埋入トルクはCT所見から想像する通り十分なものではなかったため、歯肉は閉じてプロビジョナルは両隣在歯への接着とした(図3)。経過は非常に良好で、3ヵ月後ペリオテスト等によりインテグレーションを確認し最終補綴に移行した(図4-5)。骨吸収量が多くGBRした唇側骨が再度吸収し、本来その部に結合組織移植が必要であるが希望されなかった。



図2.

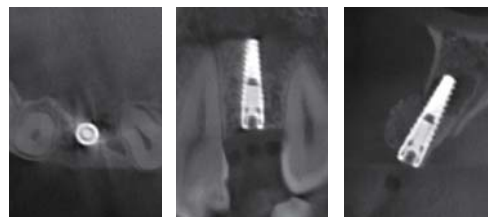


図3.

レガシー2orレガシー3のHAインプラントはテーパードでありスレッド幅とピッチの関係が程よく、その形態は一見するだけで強固な初期固定を得るのに適している。従って抜歯即時埋入即時荷重への適用が期待される。その時に必要なニュートン数(40~70Ncm)の範囲内であればマイクロフラクチャーの心配も無い。先端の2/3から3/4がHAコートであり、埋入後の骨の回復も早く十分なインテグレーションを早期に達成できる。また、ネック部は長期的な骨吸収を考慮したチタンブラスティングとなっているため、その使用感は非常に良好である。サイズも豊富にあり全症例に使用してもいいと考えている。



図4.



図5.